参考資料１

2015 年 1 月 20 日

中上英俊座長　殿

委員　市川まりこ

省エネの指標や指針に基づく目標の設定についての意見

第 4 次エネルギー計画に記載された方針に基づき、現実的かつバランスの取れたエネルギー需給構造の将来像についての検討が行われていくにあたり、将来の省エネ効果の推計は、欠かせないポイントであり、議論を進めていくことは妥当であると考えます。

基本的な考え方に述べられている「省エネ対策前ケース」と「省エネ対策後ケース」における最終エネルギー消費量（エネルギー需要）の差分が「省エネ量」とされています。ここでいう「省エネ量」を算定するにあたって意見を述べます。

１．「省エネ量」は、現実にはあり得ない数値を示すことであり、そのことを踏まえた、地に足の着いた冷静な議論と推計が必要。

２．「省エネ量」は仮想的にならざるを得ないが、現在の対策をしっかりと評価することにもなるので意味がある。

３．「省エネ量」については、国民に対してどのように効果的に伝えていくのか、そのことまでも視野に入れていただきたい。

以上